

令和6年度第2回地域福祉推進委員会会議録

日時	令和6年11月27日(水)午後1時00分～午後2時30分
場所	生涯学習センター 1階 第2ホール
参加者	<p>委員：加藤委員長、岡野委員、宮本委員、奥西委員、工藤委員、武藤委員、守本委員、西口委員、池内委員、海老名委員、山上委員、緒方委員、俣委員、西委員、西本委員、中村委員、藤田委員</p> <p>(欠席委員：迫委員、田實委員、坂本委員、堀田委員、神野委員、土井委員)</p> <p>事務局：波戸瀬福祉こども部長、須原健康長寿副部長、雲丹亀福祉こども部副部長、川北地域福祉課長 関島地域援護係長、池主任、 社協：島崎事務局長、土田事務局次長</p> <p>傍聴者：なし</p>
事務局	<p>◆次第1 開会</p> <p>＜各委員が座席表のとおり着席していることを確認＞</p> <p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。 本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。 私、事務局を担当しております、地域福祉課課長の川北でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日は、迫委員、田實委員、堀田委員、神野委員、土井委員から欠席のご連絡いただいております。 まだお見えでない方が一人いらっしゃいますが、定刻となりましたので、始めさせていただきます。</p> <p>続きまして、委員の皆様にご報告させていただきます。 本委員会は「宇治市地域福祉推進委員会の会議の公開に関する要項」に基づき公開とさせていただきます。 また、委員会終了後、発言者名は記載せずに会議録を作成いたしましてホームページにて公開させていただきます。</p> <p>それでは次に、資料の確認をさせていただきます。 本日使用する資料の中で、資料1、資料2、資料3につきましては、事前に送付させていただいております。次第につきましては、一部変更しておりますので、本日も用意しているものと差し替えをお願いします。 お手元のものをご確認いただきたいと思います。</p> <p>【資料の説明】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 資料1 地域福祉推進委員会 委員名簿

事務局	<p>3. 資料2 第2期宇治市自殺対策計画（初案） 4. 資料3 第2期宇治市自殺対策計画（骨子案）に係るアンケート結果報告 5. 追加資料 労政ニュース</p> <p>資料の不足等ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">＜資料の不備がないことを確認＞</p> <p>はい。それではこれより会議の運営を委員長にお願いいたします。 委員長、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">◆次第2 第2期宇治市自殺対策計画（初案）について</p>
委員長	<p>それでは進行を務めさせていただきます。 改めまして、皆さんこんにちは。 ただいまより、令和6年度第2回宇治市地域福祉推進委員会を始めさせていただきます。</p> <p>事務局からもございましたように、前回の第1回委員会の議事録が公開されていますが、熱心にご議論いただいたところです。そのことも反映しつつ、本日初案が挙がってきておりますので、主にそれを論議していけたらと思います。令和2年3月に策定されました本市の自殺対策計画ですが、5年間ということで、ちょうど終了します。これを総括しつつ、新しい計画を委員の皆さんのお知恵をいただきつつ策定していくこととなります。</p> <p>それでは、次第に沿って、事務局から「(次第2)第2期宇治市自殺対策計画（初案）」につきまして説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それではご説明させていただきます。 資料2の1ページをご覧ください。</p> <p style="text-align: center;">＜資料2について説明＞</p> <p>簡単ではございますが、第2期宇治市自殺対策計画（初案）の説明は以上となります。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえて、委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。</p> <p>今説明がございましたように、第1期の計画でも「自殺者ゼロのまちを目指す」ということを副題として掲げていますし、説明いただいた資料では、（初案の）4ページの自殺死亡率の年次推移を見ていただきますと、基準年である平成27年は18.34の自殺死亡率（10万人あたり）でした。この時の国の基準では令和8年を目指して13.0を目標にするということでした。それが翌々年の平成29年に11.13になり、その翌年は11.18、その次の年も11.22でした。</p> <p>令和2年に至っては10.76と、ここ数年では一番低い数値になっております。それが少し上がって、令和5年に19.76になっているわけです。近年では最高です。このでこぼこが一体何を誘因にしているのかということを実は考える必要</p>

があります。全国統計では、1998年から14年間3万人台をずっと推移して、その後下がり、今は21,000人台で推移しています。少し上がったということも言いますが、令和4年より令和5年のほうが若干減っています。数値を踏まえる必要はありますが、数値の意味するところをしっかりと掴む必要があると思いますので、説明にありましたように、国の目標（の30%減ということ）は掲げない。皆様のアンケート調査を踏まえて、あくまでゼロを目指すということにさせていただきたいと思います。

様々な視点から、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。
いかがでしょうか。

<委員、挙手>

委員

座って失礼させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど委員長からご説明がありましたように、前回の委員会では、基本方針として、令和11年までに、令和元年と比較して、（自殺死亡率を）30%以上削減させることが提案されておりましたが、今回自殺ゼロを目指すということで、方針を修正していただいたことは、私は高く評価したいと思っております。非常によかったと思っております。

ただ、実際にゼロを目指すとなったときに、具体的にどういった施策をどのように実施していくのか。正直言って、自殺対策という非常に重い課題が突きつけられているところだと思いますので、我々も真剣に、もちろん行政もですし、市民も真剣に取り組んでいかなければならないと思っております。

私事で恐縮ですが、先ほど少し委員長にもお話しましたが、実は私の甥が、7年ほど前に27歳の若さで自殺しております。

私もその事実を知ったときに、信じられない気持ちでいっぱいでした。横浜におりましたので、遠いため、たまにしか出会わなかったのですが、非常にショックを受けて、私も、弟夫婦も仕事も何も手につかない状態でした。そういうところを乗り越えて今弟も頑張っていますし、私も頑張って乗り越えてやっていかなければならないと思っております。私事で恐縮でしたが、そういったことを踏まえてひとつ提案させていただきたいと思っております。

大阪の豊中市の社会福祉協議会に、勝部麗子さんという有名な方がおられます。数年前に勝部さんのお話を伺いました。豊中市では、コミュニティソーシャルワーカーという方がいらっしゃいます。その方が、行政と市民との間で、生きづらさを抱えた人たちに対して寄り添う役割をずっと担っておられます。そういう方が4000人ほど登録されていると、数年前に伺いました。豊中市と宇治市では人口規模も違います。豊中市は宇治市の約2倍の人口ですので、宇治市の規模でいうと2000人のコミュニティソーシャルワーカーになります。そういった方が、苦しんでおられる方々に寄り添って支援をされているということでした。市民レベルで生きづらさを抱えた方々には、いろいろなシグナルがあると思います。日常の生活の中で、「この人は死を意識している」というシグナルがあると思います。そういうシグナルをやはり我々は見逃さずに、何らかの形でアクションを起こしていくことが重要ではないかと思っております。

事務局に聞いておりましたら、宇治市でゲートキーパーの研修を受けられた方

	<p>が約 100 名いらっしゃるとのことですので、豊中と比べれば、ゲートキーパーの人数としては随分少ないという印象を持ちましたが、ゲートキーパーの方々をもっと増やして、寄り添いながら支援をできる体制を我々も真剣に考えていく必要があると思います。先進事例を学びながら、我々の取り組みをより充実させていく必要があると思いますので、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>委員長 ありがとうございます。</p> <p>非常に大事なご指摘をしていただきました。しかも、ある意味で当事者としてのご発言であったかと思えます。</p> <p>シグナルを発しているというのはそのとおりですが、待ち受けるのではなく、出向いて行って信頼関係を構築するという、これは政府の令和 3 年スタートの重層的支援整備事業では、本人との信頼関係の構築ということを政府も言っております。例えば生活保護の部署で困窮を抱えていらっしゃる方でそういうシグナルを発しているケースもあるかと思えます。それをしっかり受け止める体制が重要ということになります。</p> <p>また、初案の 15 ページに「遺族への支援」が挙がっております。</p> <p>これも非常に重要なことでありまして、大事な家族を失った人の精神的なショックをケアしていくということは、これまでも出されていることではあります。これまでの活動を総括して、より良い施策に活かしていきたいと思えます。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p><委員、挙手></p>
<p>委員</p>	<p>セクハラなどが問題になって、人と接することが難しいです。</p> <p>私は榎島に住んでいますが、先日榎島小学校の先生方と一緒に、子どもの件について情報共有することがありました。先生が持っておられる情報を共有して、解決できないかもしれないが、その辺りの努力をさせていただいております。</p> <p>それから、地域包括支援センターからの情報も民生委員という立場で入ってきます。町内は 600 軒ほどあるのですが、民生委員は 3 人しかいません。民生委員 3 人で、1 人あたり 200 軒を担当しています。地域包括支援センターや小さい子どものことは学校の先生と情報を共有することを努力しています。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。これも大事なご指摘であって、今までも協議されてきたことですが、情報共有の大切さであります。警察の統計では、自殺は、家族問題、経済問題、健康問題、それから勤労問題、交際問題に分類するのです。しかし、実体的には、「この人がなぜ亡くなったのか」ということについては、非常に複合化、複雑化しているが故に、関わる側も、より包括的、総合的に関わっていく必要があります。市役所内の各課の連絡調整も重要でありますし、社会福祉協議会との連携、教育関係、地域包括支援センターとの情報共有、プライバシー、個人情報の問題、守秘義務の問題も踏まえつつ、進めていきたいと思えます。</p> <p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>

	<p><委員、挙手></p>
委員	<p>大体は理解できたのですが、1か所内容が分かりにくいものがありました。</p> <p>(自殺対策計画(初案)の)17ページの上から2つ目に「通所型短期集中予防サービス」がありますが、「個別性を重視して、運動・栄養・口腔機能の維持向上を目指します。」とありますが、どういう方がどういう人たちに対して取り組みされているのか、もう少し詳しく書いていただければと思います。自分で理解ができなかったのです。</p> <p>もう1点ですが、全体で、和暦と西暦をカッコ書きで書いている部分と、和暦のみ表現している部分があります。理由があれば別にいいのですが、全体的には統一させた方がいいのではないかと読んでいて感じました。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>委員は、豊中市の勝部麗子さんと親しいですが、(委員の)先ほどのご発言に関連してのご意見はないでしょうか。</p>
委員	<p>特にはないですが、豊中市の場合は歴史があります。1991年(平成3年)にふれあいのまちづくり事業という、今のソーシャルワークのモデルスタイルに取り組む事業が国で始まりました。その指定を豊中市も受けて、プログラムの中に小地域ネットワーク活動というプログラムがありました。1995年に阪神淡路大震災が起きて、豊中も随分被災しました。その中で小地域ネットワーク活動の力が、すごく高く評価されて、そこから地域を基盤にしたコミュニティソーシャルワークが非常に注目されるようになって、2004年に大阪府の地域福祉推進計画、支援計画にあたるものですが、大阪府としてコミュニティソーシャルワークを中学校校区で配置していくという流れになってきたのです。そこから広がっていったという歴史があります。</p> <p>支援計画は都道府県レベルの計画で、これからは市町村レベルの地域福祉計画の方がより重要になってくると思います。市町村の時代になってきていますので。</p> <p>その中でどういう方向性を出すのかという議論になってくると思って伺っていました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員のご指摘の2点について、事務局の方でよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>まずは3人の委員から重層的なことについてご指摘いただいたとっております。宇治市では包括的な支援ということで、各課が連携して横の連携をしながら各人が抱えておられる複合的な課題に対応してきたところです。コミュニティソーシャルワーカーについては、現状まだ配置というところには至っていませんが、(コミュニティソーシャルワーカーを指して)この方は、アウトリーチをしたり、地域の支援体制づくりをするような仕事をされるような方というように認識しております。包括的支援、重層的支援のあり方の中での検討課題だと思っております。</p> <p>現時点では、始めたばかりですが、ゲートキーパー研修を受講した方で、自殺、自死の兆候のある方を把握して適切な窓口につなぐことをしております。</p>

	<p>が、やはり地域づくりということは大事なので、そこはこれから検討していきたいと思います。</p> <p>それから、委員からご指摘のあった暦、年の記載のところにつきましては、資料のボリュームがありますので、表記ゆれがまだ残っていると思います。そのところはしっかり整理させていただきたいと思います。</p> <p>それからもうひとつの「通所型短期集中予防サービス」については、(説明を)代わります。</p>
事務局	<p>失礼します。本日は部長が別の公務のため、出席できませんので、私が代わりにお答えさせていただきます。</p> <p>「通所型短期集中予防サービス」について、どんな事業かということですが、通所型サービス C と呼ばれているもので、総合事業の対象者に対して、市内 2 か所で、専門職が指導を行うもので、運動・栄養・口腔・認知症予防等の指導を実施します。理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、栄養士などが実施しています。先ほど申しましたように、2 会場で週 1 回ということで、年間 80 回実施しています。</p>
委員長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>今ご説明いただいたように、文言を分かりやすくしていただけたらありがたいと思います。</p>
事務局	<p>計画の中身につきましては、わかりやすいように表記を変えさせていただきます。</p> <p><委員、挙手></p>
委員	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>前に戻りますが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員の意見の) 学校の先生の情報が大切ということで、サインを送ってくれている子どもたちを現場の先生たちがすばやく受け取るという話から思ったことがあります。</p> <p>宇治市の中で現場に携っておられる先生方の研修会はどのような形、または何回程度されているのでしょうか。そのところをお尋ねしたいと思います。</p>
委員長	<p>はい。では事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>教職員の研修は教育委員会で逐次実施しているということになります。</p> <p>自殺対策に特化した研修というのは、我々が把握しているものではありませんが、学校なので、例えば児童虐待とか、ヤングケアラーとかそういった視点で、普段からこども家庭センター、こども福祉課で連携していて、そういった子どもの兆候があれば情報をいただけるような仕組みは構築しています。</p> <p>自殺対策計画の第 2 期の改訂をするにあたって、学校とどのように連携していくのかということについては、学校もスケジュールが大変厳しいところになるので、どういった形で課題認識を共有できるのかということは考えていきたいと思っております。</p>

<p>委員長</p>	<p>はい。委員、よろしいですか。</p> <p><委員、了承></p> <p>はい。ありがとうございました。 とても大事なことなので、成案では加筆していけたらよいと思います。 今回の初案で3つの重点項目が挙がっています。 (初案の)11ページ下から4行目で、ひとつ目は「高齢者」、2つ目が「生活困窮者」、3つ目に「勤務・経営」となっています。「勤務・経営」より、「働く人」の方がよいですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>これはパッケージと言って、国が市町村ごとに評価した文言をそのまま書かせていただいたので、実際の対策編のところは、19ページの(3)で「働く人への支援」というところで、ここで言葉の書き換えをさせていただいております。</p>
<p>委員長</p>	<p>19ページに合わせていただいた方が市民としてはわかりやすいのではないかと思います。</p> <p>数字的には、30代、40代、50代の働き盛りの男性が特に多いわけですが、今お話があったように子どもや若者の自殺ということも、決して軽視してはいけなわけです。15～39歳までの死因のトップが「自殺」です。</p> <p>例えば50代以降の死因のトップは「がん」と「心臓病」です。私などはそのあたりの死因が中心となってくるわけです。</p> <p>日本人の15～39歳の死因のトップは「自殺」です。未来のある人たちの痛ましい状況ですので、しっかり若い人への関わりも重要なことだと思います。決して軽視すべきことではないですね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p><委員(支援者)、挙手></p>
<p>委員 (支援者)</p>	<p>委員がLINEで作られた文章を代読します。</p> <p>自殺者減少対策について、宇治市と同様に全国平均を下回る都市と連携することが重要だと思います。</p> <p>同じ課題を抱える都市と連携することで、情報量が増加し、有効な打ち手のヒントが広がると思います。特に、過去の具体的な成功例、失敗例などの対話は大切に思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。 ぜひともその辺り参考にさせていただきたいと思います。 事務局からございますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今まであまり他都市との連携とか、情報収集などはできていないと思いましたが、どういった都市と連携ができるのかということはあると思いますが、いろいろな情</p>

	<p>報収集のツールにもなると思いますし、意見交換をする中で新しいアイデアが出てくるともあると思いますので、そこは進めていきたいと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p><委員、挙手></p> <p>委員</p> <p>よろしくをお願いします。</p> <p>先ほど委員長が、30代、40代、50代の自殺者についてお話をされました。ちょうど子育ての真っ最中の年頃で、少子化もあります、お母さんも働いて、十分な子育てができないという方が近所にもいらっしゃいます。近々うちの近所で餅つき大会などが行われますが、親が積極的に何かをすることが難しくなってきたということも聞きましたので、親子で楽しめるような、親子の交流が持てるような取り組みを増やしていただいたらよいのではというのがひとつです。</p> <p>それから先ほどの話で、高齢者の方の自殺者も出てきているということで、「待ち受けるのではなく出向いていく」ということを委員会の初めで、委員長が言われたと思いますが、2週間ほど前に醍醐にあるパセオ・ダイゴローに行きまして、そこで京都市伏見区の地域包括支援センターと区役所の職員と、薬剤師さんが市民向けにいろいろな取り組みをなさっていました。健康対策のひとつだと思うのですが、血糖値などの数値の測定で、少し心配な方は、「包括支援センターに相談にいらっしゃったら？」と案内をされていました。役所の方が、民間の人が集まる場所に出向かれて、(取り組み)をされていることに、「いいなあ」と思いました。実は11月29日モモテラスのマルチ広場というところで、歩行バランス測定、瞬発力、血管年齢測定、パネル展示、介護の相談(醍醐の地域包括支援センター)を、醍醐の区役所、醍醐の地域包括支援センター、薬剤師で実施されます。</p> <p>これも行ってみようかという気になります。</p> <p>人がいる場所で活動していくことで、役所との垣根を下げた交流とか、市民に直に話を聞けたりするのではないかと感じましたので、お伝えさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>委員長</p> <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>大事な提起だと思います。事務局からいかがでしょうか。</p> <p>事務局</p> <p>まず、子育て中の方の悩みで、孤立化などの悩みを抱える方がいらっしゃるということで、今年から宇治市では、こども家庭センターを設置して、虐待の児童福祉の部分と、母子保健が連携して各ご家庭の状況を把握しています。</p> <p>宇治市ではお子さんが生まれたら全家庭訪問していますので、ご家庭の状況を掴んで、悩みを抱えておられるご家庭があれば支援に入っていくという取り組みもしております。交流の場とか、サークルやNPO法人の活動の支援、気軽に集える場所づくりもしています。そういうところは子育て情報誌という冊子を作って周知をさせていただいておりますが、もっと広がっていくことが大事だと思っています。宇治市は子ども子育てについて取り組んでいますので、引き続きやっていきたいと思っています。</p>
--	--

	<p>それから、健康教室、介護予防教室になりますので、説明を変わります。少しお待ちください。</p>
<p>事務局</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>宇治市でも各地域包括支援センターについては、総合的な相談窓口ということなのですが、一方で（委員が）言っておられる、地域に出向いて行って、いろいろ活動に参加する、参加するだけでなくカフェを開いたり、いろいろな取り組みをしてきております。健康づくりについては、別の課になりますが、イベント等に出まして血管年齢測定等も行っておりますので、そういった取り組みについてはしっかりと周知をはかって参りたいと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員、よろしいですか。</p> <p><委員、了承></p> <p>人が集まるスーパーなどは、情報提供という点で、情報が伝わるきっかけとして、伝わりやすいですね。</p> <p>先ほど事務局がおっしゃった重層的支援体制整備事業は令和3年4月にスタートした事業ですが、こども福祉、高齢者福祉、障害者福祉、あるいは生活困窮者福祉ということで分けないで、属性や世代を超えて、交流しつつ、相談支援とつながりづくり支援、まちづくりというか、地域づくり支援の3つを総合的にやる、というのが厚労省の大きな方針です。これは大事なことで、こういったことを踏まえつつ、具体的な施策に肉付けされる必要があると思います。</p> <p>いま委員がおっしゃったのは（初案の）23ページあたりのことだろうと思いますが、「具体的にもう少し書き足してほしい。」ということがありましたら、また事務局におっしゃってください。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>実は、うちの利用者の親御さんがおられまして、その方はよく連絡をくださる方で、ご主人がなくなられてからかなり不安定になりました。</p> <p>「いろいろお世話になりました。息子のことをよろしく願います。」という連絡が入ったのです。その時は嫌な予感もしたので、いろいろなところに電話をして、家に行ってあげてということで、お薬を大量に飲んだところにすぐに行ってもらったので、何とか大丈夫だったのです。いまも連絡をくださっていて、「息子さんのためにもうちちょっと頑張る。」ということで頑張ってくれています。</p> <p>もうお一方（利用者の）親御さんがおられますが、私と家が近所だったので、「大丈夫？」と言ったら「大丈夫よ。」と言っておられたのですが、電車で飛び込んでしまわれました。私のところの施設は保護者会ということで1か月に1回来ていただいたのですが、コロナ禍になってしまっからは保護者会はなくなっていきました。その間に親御さんの気力が落ちてしまって、病気になられて、どんどんと生きる気力を無くしまったというのがあって、（現在は）再開ししております。</p> <p>よく福祉業界で、相談員の力として、「大きなお世話力も必要だ。」ということが言われます。ただ「大きなお世話」というのが、人によっては、「本当にお世話</p>

	<p>だ」と思われる方もいるし、そのあたりの難しさをずっと感じながらいます。</p> <p>先ほどの方は、私に連絡をくださるので、「今日私は話せないので、あの方に連絡して」としゃべる機会をつくれますが、「大丈夫よ。」と連絡もできない人が実はおられて、福祉の大きなお世話力というのが本当に必要だったのだな、と思ったので、参考になるかどうかは全然分からないのですが、伝えておこうと思い、発言をさせていただきました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>いろいろな形で人と人を繋げていくというのは、大事なことだと思います。</p> <p>何かほかにございますか。</p> <p><委員、挙手></p>
<p>委員</p>	<p>不登校・ひきこもり支援をしております。</p> <p>不登校・ひきこもりの相談の中で、本当に深く心傷ついて、社会から必要とされていない、自分は生きていても価値がないというような、希死念慮の悩みを持っておられる相談もあります。</p> <p>その中で、(初案の) 21 ページに「(6) 不登校・ひきこもりの人への支援」がありますが、2つ大事なことがあると思っています。</p> <p>相談したいときに(相談) 窓口があるということで、宇治市では身近に相談できる窓口として、地域福祉課からの委託でひきこもり相談窓口あんど・ゆーがございます。そこにたくさんの方がお見えになっています。今年度は継続相談も大丈夫だということで、引き続き相談もできています。</p> <p>宇治市には、不登校・ひきこもりの支援団体、関係機関もたくさんありまして、ネットワークを構築しています。また近々連絡会議もありますが、そこでいろいろな団体が交流して、お互い学びあったり、連携しあったりという形ができています。医療や病院との連携のご依頼がありまして、「居場所活動に繋がりたい。」など、情報共有しながら、いろいろな団体が、悩んでいる方が孤立しないように、そういう体制があるので、もっと利用していただけたらと思います。</p> <p>もう一点ですが、(初案の) 21 ページに不登校児童生徒に対する支援が書かれていて、前回(の委員会でも)言ったかもしれないのですが、各学校に、学校の中の居場所、「悩んでいるのは自分だけじゃない。仲間がいるんだ。」ということで元気になっていかれる方がたくさんおられます。学校の中の居場所を、昨年度から小学校に5校、今年度5校開設されて、そこですごく元気になっておられるお子さんがたくさんおられます。教育委員会の取り組みだとは思いますが、今後全校に学校の居場所ができれば、救われる子どもたちがたくさんいるのではということをお思いますので、宇治市で予算を出してもらえたらうれしいと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>(初案の) 21 ページに関連する内容でしたが、いまお二人の委員から報告がありました。</p> <p>こういう硬い計画書が今度できるわけですが、もし可能であれば、委員がおつ</p>

	<p>しゃった電話でのアプローチとか、あんど・ゆーのアプローチとか、コラムのような形で、事例を市民に分かりやすく伝えられると、市民との情報共有が進んでいくのではないかと思います。</p> <p>私は委員から依頼を受けて、民生委員の全員研修を2022年2月にさせていただいて、地域福祉課がまとめてくれた冊子があります。ここで一番何が言いたかったかという、ストレスに対して強くなるには二つあって、ひとつは「おしゃべり」、もうひとつは、「感謝」です。この「感謝」というのは信仰的なものというよりも、ボランティア活動したり、地域活動をしたり、誰かにケアをしたり、サービスを提供をしたり、障害のある方もサービスのユーザーばかりの立場ではなく、何かをしてあげることで元気が出る。委員のおっしゃったひきこもりの方が、もちろん居場所が大事ですが、そこから今後何かをする主体になっていくということ、生きる意味を獲得していく上で大事です。そういうことを含めた一緒に市民も考えていけるような体裁にしていけたらいいなと思いました。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p><事務局、挙手></p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p> <p>「大きなお世話力」というお話をいただきました。従来型の町内会などの地縁のつながりが弱くなってきている中で、世の中的に、全体的に弱ってきているのが今の課題だと思っております。先ほどから出ております重層的支援、包括的支援というのは、地域の支え合いの力を作っていくような趣旨もありますので、これからは地域にお任せするだけだとなかなか地域を見守る力が育っていかないとしますので、その辺りを課題認識としてこれから取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>それから、ひきこもり支援は、市としても取り組んでいるところですが、継続相談のところが課題だと思っております、協議させていただきながら、今後方法について考えていきたいと思っております。</p> <p>学校の居場所については、我々の所管ではなく、具体的なお答えを出来ませんので、お伝えさせていただきました、いい事例だということで取り組みが進むように話をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それから、委員長から、コラムとか、情報提供という形で親しみやすい形でということでご提案いただきましたので、最終案に向けて検討させていただきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p><委員、挙手></p>
委員	<p>学校の関係者として、一言申し上げさせていただきます。</p> <p>宇治市の公立小中学校の教員の殆どが京都府採用の教員になります。京都府教育委員会では、「包み込まれている感覚」というものを大切に学校で携わるように、その辺りについては何度も何度も研修を受けているところです。「学校を安全・安心基地にしないと子どもは不安で学校に行けない」、「先生がよく聴いてくれる」というところがキーワードになってくると思っています。</p> <p>先ほどからいろいろな学校の問題が語られていますが、(例えば) いじめの問題</p>

	<p>などは、毎学期アンケートを実施しています。放っておくのではなく、シグナルを発見したら、子どもと対話して担任がまず聞き取る、寄り添い支える、成長を見守るといのが学校の役割だと思っています。担任だけではなく、いじめ防止対策委員会を定期的に設けて、担任が落とししているところがないか、情報共有というものを学校の中でしています。</p> <p>また、不登校の話が出てきましたが、その支援については人的配置も徐々に増やしていただいたりしています。</p> <p>研修についてですが、自殺というのはすごく大きな問題で、発達段階によっては受け止めきれないくらいきつい問題です。あつてはならないことで、学校で取り上げられるところについては取り上げますが、まず校内で教職員が研修すること、府などが集まって、いじめや不登校は大変大きい問題になっていますので、そういったところの研修は京都府教育委員会でも散々何度もさせていただいている次第です。</p> <p>あと福祉との連携ということで、民生児童委員との連携や、地域の力を借りて、学校教員だけでは到底見きれないお家で起こっていることなどについては、学校運営協議会を毎年複数回開いている形で、地域からもアドバイスをいただいています。地域の子どもの様子もそこで教えていただきながら、地域と子どもを育てていくというスタンスをとっております。今日の会議の中でも、学校の役割、責任の重さを改めて認識させていただきました。人を育てる、子どもを成長させるということ、情熱をもって寄り添っていく必要性を改めて感じさせていただきました。本当に責任の重い、子どもと最前線で付き合っている我々教員だと思いますので、今後ともご指導・ご支援いただけたらと思います。何卒よろしく願いいたします。ありがとうございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>非常に頼もしいご意見ありがとうございました。</p> <p>学校運営協議会のことについても、出来れば計画書の中に落とし込めたらと思います。その点の知恵をいただけたらと思います。</p> <p>非常に頼もしいご意見をありがとうございました。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p><委員、挙手></p>	
<p>委員</p>	<p>私は菟道に住んでいまして、菟道地域は約 440 世帯あります。</p> <p>その中には子ども会や喜老会があります。喜老会は、今はシニアクラブといます。そこが中心となって、火・木・土の朝 7 時から近くの公園でラジオ体操をしています。また、今日もやってきたのですが、そのシニアクラブが中心となって、約 20 名弱ですが、輪投げを楽しくみんなでやってきました。</p> <p>こういう状況から、自殺の問題を考えますと、各家庭のお父さん、お母さんと地域社会との繋がりが非常に希薄になってきていると思います。経済的な理由で共稼ぎすることも分からないことはないのですが、地域社会との繋がりの中で子どもたちも巻き込んで、楽しく遊んだり、スポーツをしたりすることが重要で、それが自殺を防いでいく何らかの手助けになるのではないかと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p>

	<p>地域で実践いただいていることをご報告いただきました。 他にいかがでしょうか。</p> <p><委員、挙手></p> <p>どうぞ。</p>
委員 (支援者)	<p>委員の意見を代読します。 先ほど健康教室の話を役所の方がしてくださいました。委員は、宇治市の保健師として活動されていますが、今度はインフルエンザの時期に保健師としてお話をされる機会があるそうで、年に1回という頻度が少ないように思います。例えば夏は熱中症のお話などもありますので、せっかくある健康教室の頻度を考えていただければということです。</p>
委員長	<p>事務局からいかがですか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。 おっしゃっていただいたように、健康教室でお世話になりありがとうございます。 この内容や、開催頻度については、適時やっておりますが、決してそれで十分だと思っているわけではありません。こういった回数、内容を開催していけばよいのかということについては、決して十分だと思っているわけではありませんので、引き続き検討していきたいと考えております。 ありがとうございます。</p>
委員長	<p>あとお二人くらいで。 <委員、挙手></p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>よろしく願いいたします。 (初案の) 22 ページに「(8) 妊産婦・育児中の人への支援」ということで、次のページまで幅広く支援をしていただいているような形ですが、うちは産業系のお話ということで、それも絡んでの話なのですが、死産された妊婦の方、生まれて1か月、2か月でお亡くなりになられたお子さんの妊婦の方についてです。 なかなかご本人のケアというのも大変なのですが、そういう方が従業員でお勤めになられていて、戻ってこられた事業所の方も、適切な距離感が取れないというご相談をいただくことがあります。そういったご相談の窓口を作っていたているのかもしれないのですが、私は存じ上げていません。 そういう窓口、何かあれば寄り添っていただけるような方を派遣していただくとか、事業所でどのように受け入れていけばよいのかとか、そういうことをやっていただけると良いように思います。ぜひともこの辺りを検討していただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>事務局からいかがでしょうか。</p>

	<p><事務局、挙手></p> <p>どうぞ。</p>
事務局	<p>死産とか、恵まれたお子さんを亡くされた方の悲しみは本当に深いものがあります。宇治市でもそういった保護者に対するケア、悩みのお話を聞くという部署はあるのですが、この間あまり伝わっておらず、議会でも「広く知らせてほしい。」という要望もありましたので、今後検討課題ということで、なるべくそういった窓口の案内をしていきたいと考えております。</p> <p>事業者としても悩まれているということをお聞きしましたので、そこもどういったことができるのかを検討していきたいと考えておりますので、連携ができればと思う次第です。以上です。</p>
委員長	<p>委員のご指摘は、19 ページの重点取組の「(3) 働く人への支援」に関連します。</p> <p>そこに「労政ニュース発行事業」が挙がっています。私はうかつにも知りませんで、皆さんにも配布してほしいということを直前にお願いしました。皆さんはご存じだったと思いますが、私は知りませんでした。</p> <p>これを発行して、働く人のメンタルヘルスを含めて情報提供をしているということです。委員はもちろんど存じでしょうか。</p>
委員	<p>私は存じています。</p>
委員長	<p>委員、これについて何か追加のご意見ございませんか。より良くしていくという点で。</p>
委員	<p>実は、私は発行の頻度がどれくらいなのかということなど、そこまでは存じあげてなくて、こういうものが発行されている、どこで見かけるということは知っていますが、頻度やどのように市民の方に触れているのかというところで、なかなか知らない方がおられるということでしたら、もう少し周知の方法が考えてきたいただきたいということと、きついことをいうのはあまりとは思いますが、(配布されたものが) 今日で、3月15日号の労政ニュースですので、頻度的には多くないということもありますので、そのあたりの改善をしていただいて、市民の方に触れる機会を多くしていただく、例えば枚数を少なくしてA4で1枚とかでもいいのではないかと、というようなことは思っています。</p> <p>以上です。</p>
委員長	<p>はい。</p> <p>19 ページの（「労政ニュース発行事業」）にも書いてありますが、メンタルヘルスに関する分かりやすい情報提供も課題になってくると思います。</p> <p>そしてここに「ワークライフバランス」が挙がっています。「ワークライフバランス」ではなしに、「ワークライフコミュニティバランス」という「コミュニティ」を入れた3つのバランスが大事だ、あるいはそこに「セルフ」を入れる学者もいます。「ワーク=働く」、「ライフ=家庭生活を含めての暮らし」、「コミュニテ</p>

	<p>「地域への関わり」ということで、「ワークライフコミュニティバランス」を掲げているのが、奈良県生駒市です。市長が3期目の方になりますが、元環境庁や外務省にいたエリート官僚ですが、その方が、「市役所から率先して家庭生活と労働と地域への関わりの3つを市役所の職員、公務員からやるんだ。」ということで率先してやっております。そこまで宇治市がやれるかということは市長の仕事になってきますが、せめて「ワークライフコミュニティバランス」くらいの表現がこれから大事だと私個人的には思いました。</p> <p>14時30分に終了したいと思っておりますので、他にご意見ありますでしょうか。</p> <p><意見なし></p> <p>◆次第3 その他</p> <p>委員長 はい。今後の予定につきまして事務局から説明をお願いしたいと思います。</p> <p>事務局 皆さん、本日はありがとうございました。たくさんご意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>この後議会にご報告をさせていただきます。12月中旬から1月中旬頃にパブリックコメントを実施したいと考えております。パブリックコメント等のスケジュールに関しては次第に書かせていただいております。最終的には2月の中旬までにはパブリックコメント等のとりまとめをして、最終案を作成して、2月の中旬に3回目の地域福祉推進委員会を開催させていただきたいと思っております。</p> <p>日程調整は改めてさせていただきますので、よろしくお願いいたします。そのあと3月に計画策定という流れで進んでいきたいと思っております。</p> <p>本日はたくさんご意見をいただきましたし、またパブリックコメント、また議会からもご意見をいただくことになると思います。できる限りご意見を反映したものとしたいと思っております。</p> <p>今後の予定は以上です。</p> <p>本日は本当にたくさんご意見いただきましてありがとうございました。</p> <p>今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>委員長 どうも長時間貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>これで終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>
--	---